歯学部卒業おめでとう

新潟大学歯学部長　井　上　　誠

歯学科第54期生、口腔生命福祉学科第17期生の皆さんへ、ご卒業おめでとうございます。このたびめでたくご卒業される皆さんに、歯学部全教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、保護者をはじめご家族の皆様方におかれましても、心よりお祝い申し上げます。

世界的な感染拡大が続いた新型コロナウイルス感染症もようやく収束から終息に向かいつつあります。新型コロナは2023年５月６日をもって感染症法上の位置づけが５類に移行し、現在は感染症の収束状況を見つつも、各種の制限はほぼ緩和されてきています。新潟大学においても、病院勤務者以外のマスク着用義務は推奨レベルになりました。

さて、皆さんの生活はコロナ前に戻ったといえるでしょうか。収束後の我が国の社会・経済は、想定された以上にフェーズを異にする新たな社会・経済へと不可逆的な進化を遂げているように思えます。長年にわたる慣行・慣習が崩されるとともに、デジタル化・リモート化を前提とした活動がシフトから定着に向かい、人員削減や効率化が重視されるようになり、個人、団体、社会といったあらゆるレベルにおいて変革が生まれる中で、皆さんの周囲もまた新たな価値の創造への必要性を迫られているように感じます。

求人検索エンジンで知られるIndeedでは、対面での会話の重要性を強調しています。そこには、ノンバーバルな合図の読み取り（空気を読むこと）、ホワイトボードや紙面を使った視覚的効果などを含むコミュニケーション中で複数の人間が同じ場所に集うことにより生まれる新しいアイデア、インターネットなどのテクノロジーに左右されないコミュニケーション、新しい人間関係の構築（初対面でのつながりの実感）、デジタル通信では行われることの少ない雑談から生まれる創造性、センシティブな内容に関する誤解の回避、集中できる環境（ながら仕事ができない）などの重要性が含まれています。コロナ禍において注目されたリモート機能、すなわちZoomなどでのオンライン会議や遠隔授業などは、その利便性に注目が集まった反面、改めて対面でのコミュニケーションの重要性を見直す機会となったように感じます。そしてそれは、歯科教育にも大いに当てはまります。

コロナ禍にあって、日本の歯学教育においては大きな改革がありました。歯学教育モデルコアカリキュラムの改訂です。そのキャッチフレーズには「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」が掲げられています。そこでは、新型コロナウイルス感染症の流行や、人工知能等の情報・科学技術の活用等による医療技術の高度化、超高齢社会での多疾患併存患者の増加などによる医療の在り方の変化等を踏まえて、医療者としての根幹となる資質・能力を培い、多職種で複合的な協力を行い、多様かつ発展する社会の変化の中で活躍することが求められるとしています。さらに、患者様やご家族様の価値観に配慮する観点や利他的な態度が重要であるとも強調されています。つまりは、情報を的確にとらえながら、常に多様化する社会に適応でき、コミュニケーション能力に長けた人材が求められているということになろうかと思います。

さらに、診療参加型臨床実習を実施する上で整備すべき事項として、「診療参加型臨床実習実施ガイドライン」が示されました。臨床実習は、学生が指導者の下で歯科医師としてのプロフェッショナリズムや知識・技能・態度の基本的な事項を学ぶことを目的としていることから、実際の患者様に対する診療経験を通じて、医療現場に立った時に必要とされる診断および治療などに関する思考法・対応力・実践的な技能や臨床を通じた研究意欲などを養うことであることは明白です。ここまで読み進んだ皆さんは、「新潟大学では当たり前のことではないの？」と思ったかも知れません。そうです。本学では、すでに診療参加型臨床実習が行われており、文部科学省が掲げる「臨床実習に参加する学生の適性と質を保証し、患者の安全とプライバシー保護に十分配慮した上で、診療参加型臨床実習を更に促進することが求められる」を達成していると言っても過言ではありません。社会の動向の変化をいち早く捉えて改革を進めてきた新潟大学歯学部における歯学教育を無事に修了された皆さんは、自身と誇りをもって、歯科医療従事者、福祉専門職として社会に羽ばたいていけるものと確信しています。

皆さんは、競争が激化している社会、そして歯科界の中においても高い評価を受けて卒業の日を迎えられました。私たちは、皆さんが設備、教員、カリキュラムなどいずれをとっても恵まれた教育資源のもとで、これからの社会で勝ち抜くために必要な知識、技能、態度が培われたと自負しています。新潟大学歯学部を卒業したという高い誇りを胸に、大いに活躍してください。Bon voyage!

卒業を祝して

医歯学総合病院副病院長（歯科総括）　多部田　康　一

歯学科54期生・口腔生命福祉学科17期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。長い期間にわたる努力を経て新潟大学歯学部の教育課程を修了し、学士の学位を取得された皆さん、そして卒業生を支えてこられたご家族、ご親族の皆様に心からお祝いを申し上げます。

皆さんは新型コロナウイルス感染症の蔓延という前例のない困難を経験しながらも学業と日常生活を続けるための努力を重ねてこられました。現在、ワクチンの普及とともに日常生活はほぼ正常化へと至りつつあります。ただ同時にパンデミックがもたらした影響はとても深刻なものであったことを忘れてはならず、多くの人命が失われたことも事実です。世代や立場、価値観の違いによる意見の違い、そこに生じる精神的なストレスも経験しました。これから歯科医療や社会福祉の分野で活躍する皆さんにとっては忘れることのできない貴重な学びの期間でもあったと思います。また、歯科医学教育、歯科医療の現場においては、改めて標準予防策の重要性を認識しました。個人防護具（PPE：personal protective equipment）の装着においては、多くの職員にとって長年の習慣を変えて適応する苦労もありましたが、これを基本として学んだ皆さんにとって、PPEネイティブとして、生涯に必要な感染対策を基本として習得したことが財産です。

皆さんはこれまで大学教育において、歯科医学、口腔保健医療・福祉学の重要な知識と基本技能の習得という不変的な土台を築きました。今後は現場での経験を積みながら学び続けて、成熟したプロフェッショナルへと成長してゆかなくてはなりません。優れた良き医療人として活躍し、社会に貢献してゆくために、自己研鑽の努力が必要です。その自己研鑽においては心身を損なわない程度に、しかし、少し重めの負荷をかけて欲しいと思います。この成長する時期に、積極的に学ぶことに皆さんの時間投資をしてください。近年のコミュニケーションスタイルの変化においては、皆さん自身が自律的に学び創造性を発揮する環境を重視します。目的の達成や成長のための外的なドライブフォースは無く、皆さん自身が目標を設定し、自己の評価を行い、怠ることなく努力をしてゆかなくてはならない時代と思います。

新潟大学歯学部の卒業生には、常に高い志を持ち続けてください。皆さんが各々の分野で専門職業人として社会に貢献することを基本として、現在の医療技術や医療・社会福祉システムの改善、発展、さらには新たな創造も目指していただきたいと思います。若さと積極性を活かし、既成概念に囚われない発想と挑戦が、個人的な成長を超えて社会全体のイノベーションを促進することに繋がります。おおよそ５年後や10年後の具体的な目標を設定して時間を有意義に使い、自己実現とともに社会貢献されることを願います。新潟大学歯学部・医歯学総合病院の教職員一同、皆さんを応援しています。

卒業生のことば

卒業の言葉

歯学科６年　早　川　杏　梨

時が過ぎるのは早いもので、新潟大学に入学してから５年半がたちました。臨床実習も終わりを迎え、今は来年１月の歯科医師国家試験に向けて日々必死に勉強する毎日を送っています。この５年半とても多くのことがあり、楽しいことだけではなく辛いことも多かったのですが、今回歯学部ニュースを執筆する機会をいただいたので、今までの大学生活を振り返っていこうと思います。

まず私が印象に残っているのは３年生のときのクラウンブリッジ実習です。模型上で歯を切削したり、TECを製作したり、石膏模型を製作し咬合器に装着したり等、歯科の臨床にあたって基礎的な技工操作、臨床操作を一通り経験させていただきました。初めてのことだらけでとても難しく、あまりの出来なさに泣きそうにもなりました。しかし、先生方の丁寧で分かりやすい指導や友達の支えのおかげで、なんとか乗り越えることができました。当時は、終わらせなければならない事項をただ焦りながら機械的にこなしていましたが、臨床実習を終えた今、このクラブリ実習がどれだけ実際の臨床実習に役立ったかを身に染みて感じています。

そして何よりも印象に残っているのは、去年の10月から約１年間かけて取り組んできた臨床実習です。はじめの引継ぎ期間は、先輩方が学生ながらしっかりと患者さんに向き合い、丁寧に診療を行っている姿を見てただただ圧倒されていました。そして、実習で技工操作や臨床操作がとても苦手だった私は、先輩方のように診療が行えるのかとても不安になりました。引継ぎ期間が終わり一人での臨床実習が始まると、教科書や模型上の練習だけでは学べない知識や臨床での実際の手技など、たくさんのことを学び経験させていただくことができました。臨床実習では先生方の診療見学もたくさんしましたが、その経験を通して臨床に関する知識や技術はもとより、医療従事者としての心構えなどたくさんのことを学ぶことができました。臨床実習を終えた今、私たちのために快く協力してくださった患者さん方、診療の支援をしてくれた同級生、熱心に丁寧に指導してくださった先生方等、臨床実習を行える環境を整えてくださった全ての方々への感謝の気持ちでいっぱいです。この貴重な経験を今後の歯科医師人生にも役立てていきたいです。

同級生と撮影　筆者：４列目右から２番目

卒業の言葉

歯学科６年　福　井　智　子

この度、歯学部ニュースを執筆させていただくこととなりました福井智子です。卒業を前に、このように学生生活を振り返る機会を頂けたこと、嬉しく思っております。拙い文章ではありますが、少しの時間お付き合いください。

コロナウイルスによる様々な面での制限は、この６年間を振り返る上で欠かせない出来事だったと思います。ひたすらに画面上の講義を受け、友達とも会うことができない日々にどこか疲弊し、無気力になってしまっていた時期がありました。そんな状況から、もう一度しゃんとしようと思わせてくれたのは、実習科目の存在でした。様々な行動制限がある中で、安全に実習を行えるようにと、懸命に取り計らってくださる方々がいました。このことが、自分がここに何を学びにきたのか、今何をすべきなのかを見直す機会となり、今の自分につながっていると感じています。

そして、なんといっても濃い時間であったのが臨床実習でした。未熟な私達を受け入れ、いつも親切に接してくださった患者さんの方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、学生の立場で実習をさせていただくからこそ、得られたものが多かったと感じています。診療前にしっかりと打ち合わせを行い、考えを深めたうえで実践に臨めるというのは歯科医師になってしまってからは滅多にない機会なのではないでしょうか。その他にも、ステップごとに逐一フィードバックをいただけたりと、先生方の手厚いサポートのおかげで一つ一つの診療に真正面から向き合うことができました。目標へと向かい確実に前進している感覚が自分の中にあり、この学校・この学部で学べて本当に良かったと感じました。

最後に、この６年間を共に過ごしてくれた54期の仲間たちに感謝を述べたいと思います。臨床実習の期間を経て、皆んなとの距離が縮まったことが私の中のささやかな喜びでした。こんな風に言葉にすることはあまりないので、照れくさいですね。勉強に息詰まってしまった時は、臨床実習最終日に皆んなと組んだ国試合格祈願円陣を思い出して頑張りたいと思います。頑張る姿で刺激をくれた人、辛い時に励ましをくれた人、悩んだ時に一緒に考えてくれた人、何でもない日を共にして笑顔してくれた人、皆んな、本当にたくさんありがとう！

これからも、より一層精進してまいります。お読みいただきありがとうございました。

臨床実写終了時　筆者は最前列右から４番目

卒業生の言葉

歯学科６年　柳　舘　快　利

２年次編入から早５年、いつの間にか６年生の終盤になっていました。目前のものに精一杯になりながら５年間を過ごしたため、各年が目紛しく、時間の流れの早さに驚くばかりです。また、思い返すとあの時の編入試験を受験し、あの時の面接官の先生に巡り合ったことで人生が大きく変化したのだと感慨深く思います。

５年間を振り返ると各学年で大変だった教科が思い出されます。生化学、解剖実習、クラブリ実習、義歯製作など。私は記憶力も優れず、実習も苦手という人間だったため、年々増えていく専門科目と実習が大変で、辛さが思い出になっています。他にも、授業とは別に薬理学講座にて基礎研究を学ばせていただきました。免疫沈降や骨芽細胞の培養、質量分析の見学などこれまで経験していなかった実験操作を学ぶことができました。

臨床実習が始まってからは、基礎実習とはまた違う質の難しさに直面しました。実際に患者さんの口腔内を治療させていただくため、最初は何をするにもとても緊張していたのを覚えています。私は部分担当を含めて15人の患者さんを担当させていただきました。高齢の方が多く、来院が難しい方が多かったです。患者さんによってはTBIを無意味と思っていたり、予定をどうしても忘れてしまう方であったり、ある理由からモチベーションが低下してしまっていたりと背景は多様で、患者さんを考えるという難しさを痛感しました。臨床実習が始まる前までは手技や知識にばかり目が行きがちでしたが、患者さんを相手にするというのは必ずしも治療内容の心配だけではないと感じました。特に来院の調整は大変で、当初はメンテ月の調整のみでしたが、メンテ月に来院できなかった患者さんが増えていき、また体調により来院日が決まる方もいらっしゃったため、日を追うごとに電話をする機会が増えていき、気がつけばいつも電話していたように思います。それ故に、患者さんと話す機会が多く、ラポールが形成されていくのが感じられました。大変な臨床実習でしたが、患者さんとコミュニケーションを取るのが楽しかったです。

最後に、あっという間の新潟生活でしたが、全てが貴重な経験となりました。この経験は今後生きていく上で必ず役に立つと思います。そして、これまで巡り合った友人、先生方、その他多くの方、今後出会う方々を大切にこれからも一生懸命チャレンジしたいと思います。

最後の総診連絡会にて　筆者３列目右から３番目

卒業にあたり

口腔生命福祉学科４年　菅　原　笙　子

口腔生命福祉学科への入学からあっという間に４年が経ち、卒業を迎えようとしています。改めてこの４年間を振り返ってみると、入学式はなく授業もオンラインでした。同期がどんな人たちか全然分からない不安でいっぱいの状態から、旭町キャンパスでの大学生活がスタートしたことを思い出します。「学年が上がるにつれて忙しく、４年生が一番大変」と言う話は聞いていましたが本当にその通りで、特にこの１年は臨床実習や福祉実習と並行しての就活、特論、国試勉強など、身体的にも精神的にも想像以上に大変な１年間でした。

病院実習が始まった当初は座学や基礎実習、相互実習で学んだこととのギャップに戸惑ったり、自分自身の未熟さを痛感したりすることがほとんどで、１日中気を張った疲れから帰りの電車で寝過ごしたこともありました。それでも実習を重ねていく中で褒めてもらえることが増えたり、患者さんから「頑張ってね」と応援してもらえたりと嬉しかったこともたくさんありました。病院の先生方や歯科衛生士の皆さん、同期の仲間たちに助けられながら最後までやり遂げることができて今は達成感でいっぱいです。

福祉実習では新潟市社会福祉協議会で実習させていただき、講義だけでは分からない現場での経験をたくさんすることができました。また、地域の方とも交流する機会が多くあり、地元の魅力を再発見することができました。優しい職員の皆さんにいろいろなことを教えてもらって本当に充実した実習期間でした。将来は福祉の分野に進むので、実習で学んだことを生かして一人一人に向き合える社会福祉士になりたいと思います。

最後になりますが、私が充実した４年間を過ごすことができたのは先生方をはじめお世話になったすべての方々のおかげです。この場を借りて感謝申し上げます。特に同期のみんなには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。私は17期生のみんなが大好きです。個性が強い人ばっかりで、毎日教室がにぎやかで、卒業して離れるのが本当に寂しいです。楽しい大学生活にしてくれて本当にありがとう。大学で学んだことを生かして少しでも自分の目指す社会福祉士像に近づけるように励んでいきたいと思います。

実習最終日に撮影　筆者最後列中央

卒業にあたり

口腔生命福祉学科４年　瀧　澤　侑　加

口腔生命福祉学科に３年生から編入学し、この２年間を振り返ってみると新たな挑戦や成長の機会になったと感じます。

３年生では新型コロナウイルスの影響で一部オンラインでの福祉の講義を受けました。現役生とは異なるカリキュラムで空き時間も多くあったため、今しかできない新しいことに挑戦したいと考え、口腔生命福祉学科の先生方から紹介していただいた福祉関連のボランティア活動に積極的に参加をしました。低所得世帯の子どもに勉強を教える学習支援ボランティアや児童相談所で一時保護された子どもとふれ合うボランティアなど、今までに経験したことのない貴重な活動ができました。この活動を通して身近に複雑な課題を抱えている子どもたちが想像以上に多いことが分かり、自分自身も成長につながったと考えます。多くの人々に出会い、様々な考え方や新しい価値観を得ることができたため、勇気を出して活動に参加をして本当によかったです。

４年生になると大学病院での臨床実習が本格的に始まりました。この臨床実習は編入生にとって２度目の実習となりますが、新潟大学病院は特定機能病院ということもあり、これまでに見たことのない多くの症例を学ぶことができました。最も印象に残っていることは摂食嚥下リハビリテーション科での実習です。病棟やICU、在宅等にも出向き、個人の状態に合わせた食事の楽しさや口腔ケアの重要性を伝えていくことが大切であると学びました。実習の中で、患者さんが口から食事をとれた瞬間に「おいしい」と言って涙を浮かべている姿を見て胸に迫るものがありました。普段私たちが行っている「食べる」という行為は、誤嚥性肺炎をはじめ、様々な疾患や障害を抱えた方にとって決して当たり前ではなく、食事は生きがいや喜びの一つであると再認識することができました。臨床実習を通じて口腔生命福祉学科の仲間とも関わる時間が増え、より良い関係性を築くことができました。実習に加え就職活動、卒業論文、国家試験勉強が並行して行われたため今年は特に忙しく、選択に悩むことの多い日々だったと感じます。しかし、同じ学科の仲間や先生方がいつも親身に相談に乗ってくださり、一つ一つ乗り越えていくことができました。

今後も口腔生命福祉学科で学んだことを忘れず、ダブルライセンスを活かして地域に貢献できるよう、成長していきたいです。

筆者は中央、編入生５人で実習後半時期に撮影